

# プログラミング基礎

2022年度1Q 火曜日 3, 4 時限(10:45~12:25)  
金曜日 1~ 4 時限( 8:50~12:25)

工学院 情報通信系

中山実, 渡辺義浩

伊藤泉, 小杉哲

TA: 小泊大輝, 千脇彰悟

# 4/25(火) 10:45~12:25

- 第5回「配列 1」

1. 配列の宣言と初期化

2. 配列の使い方

3. 文字配列

# 配列 (array)

- `int a[100];`
  - メモリ上の連続領域にint型変数100個分の領域が確保される
- `a[0], a[1], ..., a[99]`
  - 添え字 (index) を使って各領域を指定できる
  - 注意：0から始まる！
- `a[10*i+j]`
  - 添え字は数式でもいい.

<code>a[0]</code>
<code>a[1]</code>
<code>a[2]</code>
<code>a[3]</code>
<code>a[4]</code>
$\vdots$
<code>a[98]</code>
<code>a[99]</code>

# 配列の宣言と初期化

```
#include <stdio.h>

int main(void){
    int i;
    int a[6]={2, 5, 3, 5, 6, 1};

    for(i=0; i<6; i++){
        printf("%d ", a[i]);
    }
    return 0;
}
```

実行結果

2	5	3	5	6	1
---	---	---	---	---	---

# 配列の宣言と初期化

```
int a[6]={2, 5, 3, 5, 6, 1};
```

- 単独の変数の時と同様に, 宣言と同時に初期値を与えることができる.
- 要素の数だけ初期値を並べる.
- 宣言の数より要素が足りないと 0 が入力される.
- `a[6]={2, 5, 3};` として実行してみよう.

# 配列の宣言と初期化

```
int a[6]={2, 5, 3, 5, 6, 1};
```

- 宣言の数を入力しないと初期値の数に合わせて宣言される.
- `a[]={2, 5, 3, 5, 6, 1};`でも可能.
- 宣言の数より多く初期値を入れてもコンパイラは認識できない.
- 暴走の可能性があるので十分に注意する. (試してみてもいい)

# 配列の利用

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {
```

```
    int i;
```

```
    int a[11];
```

```
    for (i=0; i<=10; i++){  
        a[i] = i*i;
```

```
    }
```

```
    for (i=10 ; i>=0; i--){  
        printf ("%d ", a[i]);
```

```
    }
```

```
    return 0;
```

```
}
```

- 11個の要素を持つ配列を宣言

## 実行結果

100	81	64	49	36	25	16	9	4	1	0
-----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---

# 配列の利用

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {
```

```
    int i;
```

```
    int a[11];
```

```
    for (i=0; i<=10; i++){
```

```
        a[i] = i*i;
```

```
    }
```

```
    for (i=10; i>=0; i--){
```

```
        printf ("%d ", a[i]);
```

```
    }
```

```
    return 0;
```

```
}
```

- 0~10までの数値の二乗を配列に格納する.

## 実行結果

100	81	64	49	36	25	16	9	4	1	0
-----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---



# 配列の利用

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {
```

```
    int i;
```

```
    int a[11];
```

```
    for (i=0; i<=10; i++){  
        a[i] = i*i;  
    }
```

```
    for (i=10; i>=0; i--){  
        printf ("%d ", a[i]);  
    }
```

```
    return 0;
```

```
}
```

## 実行結果

100	81	64	49	36	25	16	9	4	1	0
-----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---

- 配列の要素を大きい方から順に出力
- この例では、配列を使う必然性はなく、出力時に計算してもよい
- 実際には、一旦配列にデータを格納し、あとで出力させる場合も多い

# 文字型配列の宣言と初期化

- 文字型配列の宣言
  - 一番最後に文字列の終わりを示す“¥0”(¥0)を入れる
  - エスケープシーケンス, NULL文字
  - “¥0”も考えた長さにする.

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {  
    char str[6]={ 'H', 'e', 'l', 'l', 'o', '¥0' };  
  
    printf("%c¥n", str[0]);  
    printf("%s¥n ", str);  
  
    return 0;  
}
```

実行結果

H
Hello

# 文字型配列の宣言と初期化

- ほかの宣言と初期化例
  - 文字列の場合は, " "とする.

```
char str[]={ 'H', 'e', 'l', 'l', 'o', '¥0' };  
char str[6]="Hello";  
char str[]="Hello";
```

# 文字型配列の宣言と初期化

- 後で代入は不可.

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {  
    char str[6]={'H','e','l','l','o','\0'};
```

```
    ✗ str ="Hello";
```

```
    printf("%c\n", str[0]);  
    printf("%s\n ", str);
```

```
    return 0;
```

```
}
```

# 文字型配列の宣言と初期化

- 1文字の出力：`%c`
- 文字列全体の出力：`%s`

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {  
    char str[6]={'H','e','l','l','o','\0'};
```

```
    printf("%c\n", str[0]);  
    printf("%s\n ", str);
```

```
    return 0;
```

```
}
```

実行結果

H
Hello

# 文字型配列の宣言と初期化

- 大きい配列を宣言
- 文字の入力. 変換指定子は%s
- 変数(str)の前に&をつけない.

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {
```

```
    char str[100];
```

```
    printf("Input a word¥n");
```

```
    scanf("%s", str);
```

```
    printf("The word is: %s ¥n", str);
```

```
    return 0;
```

```
}
```

## 実行結果

Input a word

Happy //入力した文字

The word is: Happy

# 配列への読み込み

```
#include <stdio.h>

int main(void){
    int a[3];

    scanf("%d", a);
    scanf("%d", a+1);
    scanf("%d", &(a[2]));

    for(int i=0; i<3; i++)
        printf("%d ", a[i]);
    printf("\n");
}
```

## 実行結果

1		
2		
3		
1	2	3

# printf 書式 (再掲)

- %[flags][width][.][precision][typeのプレフィックス]type

フィールド	指定値	意味
flags	-	変換される引数を左詰めにします。指定しないと右詰めにします。
	+	出力する値が符号付きの場合「+」または「-」の符号をつけます。指定しないとマイナスのときのみ「-」がつきます。
	0	最小幅になるまで0を追加します。出力値がマイナスと0の場合は0は追加されません。省略すると0は追加されません。
width	数値	文字幅を指定します。表示する文字数が大きい場合は自動で拡張します。
precision	数値	精度を指定します。つまり小数点以下の桁数を指定します。
Typeのプレフィックス	h	Short intに適応させます。
	l	long修飾です。
	L	long double修飾です。

[桑井2013]



# printf 書式 (再掲)

- %[flags][width][.][precision][typeのプレフィックス]type

フィールド	指定値	意味
type	d, i	10進整数を指定します。
	o	符号なし8進数を指定します。
	u	符号なし10進整数を指定します。
	x	符号なし16進整数で、a, b, c, d, e, fを使います。
	X	符号なし16進整数で、A, B, C, D, E, Fを使います。
	f	浮動小数点を指定します。
	e, E	指数変換を指定します。±0.00e00または±0.00E00。
	c	文字変換を指定します。
	s	文字列変換を指定します。
	p	ポインタ変換を指定します。
	g	指数の絶対値が大きい時に指数表示で出力

[桑井2013]

# 演算子一覧 (再掲)

優先順位	記号	意味
1	()	関数呼び出し。printf(...), main()等
	[]	配列
	->	構造体メンバ参照
	.	構造体メンバ参照
	++	後置増分
	--	後置減分
2	++	前置増分
	sizeof	記憶量
	&	アドレス
	*	間接参照
	+	正符号
	-	負符号
	~	1の補数(ビット反転)
	!	否定

優先順位	記号	意味
3	()	キャスト
4	*	乗算
	/	除算
	%	剰余
5	+	加算
	-	減算
6	<<	ビット左シフト
	>>	ビット右シフト
7	<	左不等号 (大きい)
	<=	等価左不等号 (以上)
	>	右不等号 (小さい)
	>=	等価右不等号 (以下)
	==	等価
8	!=	非等価

# 演算子一覧 (再掲)

優先順位	記号	意味
9	&	ビットごとの論理積
10	^	ビットごとの排他的論理和
11		ビットごとの論理和
12	&&	論理積
13		論理和
14	?:	条件。a?b:cのように使う
15	=	代入
	+=	加算代入
	-=	減算代入
	*=	乗算代入
	/=	除算代入
	%=	剰余代入
	<<=	左シフト代入
	>>=	右シフト代入

優先順位	記号	意味
15	&=	ビット積代入
	^=	ビット差代入
	=	ビット和代入
16	,	コンマ演算子

# “math.h”関数の一部

戻り値	関数	処理の内容
double	<code>cos(double x)</code>	コサインを返す
double	<code>sin(double x)</code>	サインを返す
double	<code>tan(double x)</code>	タンジェントを返す
double	<code>acos(double x)</code>	アークコサインを返す
double	<code>asin(double x)</code>	アークサインを返す
double	<code>atan(double x)</code>	アークタンジェントを返す
double	<code>atan2(double y, double x)</code>	y/xのアークタンジェントを返す
double	<code>cosh(double x)</code>	双曲線コサインを返す
double	<code>sinh(double x)</code>	双曲線サインを返す
double	<code>tanh(double x)</code>	双曲線タンジェントを返す

# “math.h”関数の一部

戻り値	関数	処理の内容
double	<code>ceil(double x)</code>	xより大きい最も小さい整数を返す
double	<code>floor(double x)</code>	xより小さい最も大きい整数を返す
double	<code>fabs(double x)</code>	絶対値を返す
double	<code>pow(double x, double y)</code>	べき乗(xのy乗)を返す
double	<code>sqrt(double x)</code>	平方根を返す
double	<code>log(double x)</code>	自然対数を返す
double	<code>exp(double x)</code>	指数関数 $e^x$ を返す

# 参考（再掲）

- 繰り返し処理が終了しない時(無限ループに入ってしまった場合)
  - 実行窓の■赤ボタン（左上）を押す.
- Mac OSの場合：
  - バックスラッシュ(\) : option + ¥
  - 無限ループに入る, 画面が固まる : option + command + esc (強制終了)

# 参考

- 無限ループの例

```
while (1) {  
    ...;  
}
```

```
do {  
    ...;  
} while (1) ;
```